

核兵器廃絶をめざす 富山医師・医学者の会 会報

2013. 10. 5
核兵器廃絶をめざす
富山医師・医学者の会
富山市桜橋通り6-13
電話 076-442-8000

8/11

核のない世界を未来の子どもたちへ

アニメ「はだしのゲン」上映と被爆体験を聞く会



会場の富山電気ビル 5 F 中ホール (2013年8月11日)



司会を務めた
小熊清史世話人副代表

8月11日、核兵器廃絶をめざす富山医師・
医学者の会（以下反核医師の会）、富山県被

爆者協議会、「はだしのゲン」をひろめる会・
富山準備会の三団体の共催で、アニメ「はだ
しのゲン」上映会と被爆体験を聞く会を開催
しました。



アニメ「はだしのゲン」に見入る子どもたち

会場となった富山電気ビルは中学生以下の
子ども25名を含む、146名の参加者でいっ
ぱいになりました。司会を反核医師の会の小
熊清史世話人副代表が務め、主催団体を代表
して反核医師の会の金井英子世話人代表が挨拶
をしました。

アニメは、作者中沢啓治氏の体験に基づく
原爆の惨禍や当時の時代背景・世相風俗を現

主な内容

- 「はだしのゲン」上映と被爆体験を聞く会 主催者挨拶（金井代表）…………… 2
- 被爆体験を聞く会 岸川義一氏、柴田政一氏 …………… 3
- “ ” 田島正雄氏 …………… 4
- 富山県被爆者協議会の文集「叫び」から 水野耕子氏 …………… 5
- 投稿「NHK 終わりなき被爆との闘いを見て」…………… 5
- 投稿「日本外来小児科学会WS」「真実は隠蔽されてはならない」…………… 6～7
- 投稿「アベノアゼンプレゼン」…………… 8

しながら、主人公のゲンたちが戦後をたくましく生き抜く姿を描いたマンガ作品です。ゲンを中心とした中岡家の日常から始まり、原爆の投下とともに父・姉・弟を失い、ゲンの目を通して目を背けたくなるような惨状が映され、亡くなった妹のために灯籠を川に流すシーンで締め括られています。

会場では子どもたちがゲンの戦後の悲惨な状況をたくましく生き抜く姿を食い入るように見つめ、あちこちで多くの参加者が涙を流し鑑賞していました。

アニメ上映後、県被爆者協議会の岸川義一氏、柴田政一氏、田島正雄氏が広島での体験を話されました。

子どもたちに平和への強い意志と希望を伝えたい

主催者あいさつ

世話人代表 **金井 英子**

今日は暑い中多くの方にお越しいただき、どうもありがとうございます。

私たちの会の名は「核兵器廃絶をめざす富山医師・医学者の会」です。いったん核戦争になった場合、熱線による障害であれ被害が大きすぎて、私たち医師はそれを治すことができません。戦争という病気の一歩の薬は予防なのです。そのために医師・医学者の会は約25年前に結成されました。

志を同じくする人を広めていきたい

今日は私たちの会だけではなく、富山県被爆者協議会、はだしのゲンをひろめる会・富山準備会の3つの団体が協力してこのような会を開催することになりました。1人の力はものすごく小さいです。ですから、横のつながりを大きくして声を大にして、少しでも志を同じくする方を広めていきたいし、私たちの思いを全国に強めていきたいと思っています。

父が被爆した広島で

1年前のちょうど今頃、私は広島で開催された核戦争防止国際医師会議に行ってきました。暑い日でした。その時に原爆ドームへも行ったのですが、いつ見ても涙が流れます。それには理由があります。じつは私の父が広島で被爆しているのです。今日お話してくださいる被爆者協議会の方と同じように、軍隊で広島に入って、けが人の救助や亡くなった方を火葬するといった仕事してきた、そういう思い入れのある地なのです。

私はドーム前の駅から市電に乗ったのですが、ちょうど夏休みの日曜日。みんな着飾っ

て街で買い物をして楽しい雰囲気でした。68年前の朝、ここに突然原爆が落ちて、大勢の方が一瞬で亡くなってしまったかと思うと、遠い過去のことには思えず、ものすごく大きな悲しみに私は襲われました。



空襲で焼け残った電気ビルでの開催

でも広島だけではありません。この富山でも8月1日に大空襲がありました。その時、今回の会場である富山電気ビルが焼け残ったのです。そのような記念すべき建物で今日、会ができるというのは1つの運命のようなものを感じます。電気ビルのすぐ隣に松川が流れていますけれども、そこは焼夷弾で焼かれた方で溢れていたそうです。そのような悲惨な状況を経験をした人がだんだんお歳をとられてお話ができなくなっています。そういう方たちからお話を聞いて、後世の人たちに伝えていかなければと私は思っています。

平和への強い意志と希望を持ち帰って

今日会場を見渡すと、小さい子どもさんがたくさん来ておられて心強いです。今日の映画を観たり、被爆された方たちのお話を聞いて、「こんな恐ろしいことがあったんだ。二度とこの富山を焼け野原にしてはいけない」という、平和への強い意志、平和への希望を持って帰っていただくことができれば、私たちは大変本望に思います。

被爆体験を聞く会

「はだしのゲン」は私たちがヒロシマで 見たことそのものだ

砺波市・岸川義一氏（90歳）

先月のいつだったでしょうか、NHKの広島放送局から「ヒバクシャからの手紙」を書いてほしいという連絡がありました。投函した私の手紙を読み上げたいと思います。

あの時のにおいの記憶が離れない

広島に原爆が投下された3日後の8月9日、無線通信手として和歌山の楠部隊に配属されていた私は、急に広島に向かうよう命令を受け、無蓋貨車に乗って広島駅に到着しました。待合室はけが人であふれ、近くの元安川には遺体が無数に浮かんでいて、道ばたにも多数の遺体が横たわっていて目を覆うばかりの光景でした。今でもあの時のにおいの記憶が頭から離れません。あらゆる建物の窓ガラスは壊され、電車が吹き飛んでひし形に変形していました。

水を飲ませたとたん死んでいった

目的地である電信電話局につくと地下室と屋上に遺体が集まっていて、瓶（かめ）に入れてひたすら運び出しました。学校のグラウンドには遺体やけが人が所狭しと並び、水をくれと言うので飲ませたとたん我々の目の前で

何人もの人が死んでいきました。お医者さんが一人いたようですが、おろおろするだけで何も治療できなかったようです。夕方道ばたの遺体から、



燐が燃え、青白い光を放ちながら、小さい火の玉が無数に飛んでいるのを見ました。夜になると遺体を焼く炎が至る所でメラメラと見えました。

福島でヒバクシャを出さないほしい

あのときの生き地獄をこの目で見て体験した恐怖は、今も脳裏に刻まれています。今回の福島の原発事故で、安倍首相には残留放射線によるヒバクシャを絶対出さないほしい。私たちは国民の無関心が一番怖いのです。そのためにも、私は命あるかぎり、自分の経験を伝えていきたいと思っています。

高岡市・柴田政一氏（85歳）

私は、いつかこの「はだしのゲン」のアニメを見たいと思っていて、今日念願が叶いました。ズバリ、私の経験したことそのまま、真実を語っていると思いました。これはぜひ多くの皆さんに見てもらいたいです。

学徒出陣で入隊、広島へ

アニメではふれていなかった話をします。6日の朝7時9分に空襲警報が出されました

が、気象観測機だったため7時31分に解除されました。そのため人々は防空壕から出て無警戒の状態でした。それが被害をより大きくしたのです。投下後軍は会議を開きましたが専門家は「まだ原爆は完成していないはず」と答え、国民には新型爆弾としか発表されませんでした。私自身もずっと原子爆弾であることを知りませんでした。

17歳で学徒出陣で入隊、8月に広島に入り惨状を目の当たりにしました。防火用水の



中で子どもを背負った若い母親の遺体を見つけたときは、本当にびっくりしました。「兵隊さん、兵隊さん、水を…」と半分体の焼けた少年から懇願されても、上官

から水はやられんぞと言われていたので、振り返りながらもどうしようもなかったこと。焦げた電車の中、運転台でレバーを握りしめたまま死んでいた女性運転士。今でもはつき

りと脳裏に浮かびます。

戦後、原爆にはふれてこなかった

私は戦後長い間広島へは行かなかつたし、原爆の話もしませんでした。なぜ今まで話さなかつたのか、とNHKさんに聞かれましたが、自分でもつらく話してわかってもらえない気がしていました。しかし今回こういう場で話をするというので、今度は、どうして話す気になったのかと聞かれました。自分でもよくわかりませんが、原子爆弾は文明の破壊であることは確かで、残された人生、ささやかな誇りを持ち続けたい、ということだと思います。

富山市・田島正雄氏（85歳）

一発の原子爆弾は、世界が始まって以来の大惨事だったと思います。再びこのようなことが起こらないよう、切実に私たちは願っています。

当時17歳だった私は、学徒動員で広島江田島にいました。朝の8時15分に原爆が炸裂し、「広島の方に新型爆弾が落ちたからこれから行って、救援に行きなさい」ということで、その日のうちに広島市へ入ったのです。

つらかった遺体運び

いろいろありましたが、中でも1番つらかったのは遺体を集めることでした。場所が無いので学校のグラウンドを使いました。当時は手袋も無く素手で運びました。遺体を抱き上げると生暖かく、持ち上げた衝撃で腹の皮が破れ、体の内臓がとろとろと手にかかるのです。私たちはそういう方々をずっと校庭に並べました。夜は何百というその中に入って寝



て、食べ物もなく、わずかの水しかない中で毎日そういう作業をやっていました。ある時、亡くなった人達の間を通り抜けたら、私の足をぐつつかまえてきたのです。亡くなったようにみえても中には生きて



いた方がおられたということは事実です。そういう体験をしました。

体力の許す限り語り継ぎを続けたい

富山県被爆者協議会のことですが、富山県には広島と長崎で原爆の被害にあわれた原爆被爆者の方が現在も50数名おられます。私はそういった方々のお手伝いをしており、私たちは再び被爆者をつくらぬという強い願いから、この運動をやっていきます。

私たちが体験した悲惨な事実を、責任をもって後世の方々に伝えておきたいと思っています。私たちがだいぶん歳になりましたが、今後も体の許す限り、語り継ぎの運動を続けていきたい、そして世界平和を守りたいという信念ですので、今後もよろしくお願ひします。

富山県被爆者協議会 連絡先
連絡先 076-478-1674 (田島 正雄)

富山県被爆者協議会の文集「叫び」から

14歳の悲痛な思い出

長崎で 水野 耕子 (射水市)

私は爆心地より2.8キロの学校工場で被爆致しました。当時14才でした。長崎市内を真中から金比羅山という山が伸びて両側に街があり、爆心地より裏側になる場所です。

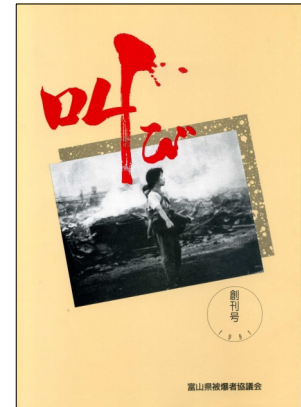
原爆が落とされて地上2千メートル上空でピカ！と全市に閃光が拡がり、次の爆発は地上で起きました。2階の教室で異常な光を浴びるなり、友の手を取り階段を駆け下りようとなりました。一人が「アッ、防空頭巾！」と云うなり手をもぎ放してかけ上がって行きました。私はもう一人の友と12段の階段を、踊り場まで駆け下りた瞬間、凄い振動で壁に打ちつけられ気を失いかけていました。一瞬の後見たものは、壁の姿見の鏡が頭上より落ちコナゴナに割れ、辺りは白いホコリと煙の様なもの漂っていました。

ボロを下げたような人達が歩いていた

下で先生の声が聞こえて助かったと感じ、上に戻って友の処へ行くと足の裏をガラスの破片で切り、動脈切断と顔の顎にもガラスが突き刺さって大出血をしていました。光によって小さく割れた破片が人々の身体に刺さり、多くの友は次々と傷を負い出血して医務室の方へ走っていきます。幸い無傷だった私は部屋のガラスが滅茶苦茶に散乱したベッドを先生とひっくり返して重傷者を寝かせました。その後「元気な者は早く家に帰りなさい」と言われ、裸足のまま吾家へ走って戻りました。辺りは夏の日盛りと云うのに夕方のように薄暗く、家の前を山越えしてきた被災者達が4、5列になって言葉も失ったままよよろと歩いてきます。

何十人何百人とボロを下げた様な人達、やっ

と歩いている人、大八車やリヤカーに乗せられてくる人達。水を求め共同水道に群がって飲んで、又ヨロヨロとして行ったあの人達は、おそらく何人かは生き残ったことでしょう。しかし後に原爆症に苦しみ46年経っても、生命の一部に問題を残すと誰が思ったことでしょうか。その夜近くの裏山の谷底へ皆避難しました。街は一晩中燃え続けていました。



道端の頭蓋骨を平気で見ていた14歳

谷底での避難は2日間でしたが、敵機は9日の夜も来て探照弾を落として写真を撮って行きました。3日目は父母を残し私達姉妹4人は地熱の残る長崎駅まで歩きましたが、使用不能で4つ目の駅まで歩きました。その間、敵機来襲で機銃掃射を受けては林や森へ逃げながら、やっと佐世保の伯父の疎開地へ辿り着きました。

1ヶ月後街の電柱に張られた新学期の案内の紙や、食糧難と実験的に爆心地の医大グラウンドに植えた芋やじゃが芋が異常に大きくなって、それを学生皆が大喜びして食べたこと、又歩きながら道の側に残された人骨や頭蓋骨を平気で見ていた14歳時代の私の事を考えるとゾッとするのは、本当に大変な時代を過ごしてきたと思います。

この衝撃の体験、核の恐怖が解ってきた現在、2度と再び私達の体験を繰り返してはならないと切実に思います。語る事でますます強く思うのです。

* 水野さんは長く県被爆者協議会の事務局長を務め、今年3月に亡くなられました。

NHK「終わりになき被爆との闘い」を見て

世話人代表 (砺波市・小児科) 金井 英子

MDSとは骨髄異形成症候群の略称であり、血液中の血球が正常に作られなくなる病気である。患者の20～30%が白血病に移行す

るとされており、第二の白血病とも言われている。

原爆から生き延びた被爆者にみられた最初

の癌は白血病である。白血病は被爆2、3年後から急増し10年後に猛威をふるった。

(佐々木禎子さんも被爆から10年後に発症し8カ月後に亡くなりました。)その後、白血病の脅威は終焉したかと思われていた。ところが2000年頃からMDSを発症する被爆者が増加してきた。

長崎原爆病院の朝長万左男院長は、2011年の論文(注)で被爆とMDSとの関係を初めて明らかにしている。MDSは被ばく線量が多いほど、また被爆時の年齢が若い程発症率が高かった、と報告している。

なぜ、被爆から40～60年も経ってからMDSを発症するかという疑問に対して、被ばくにより遺伝子に小さな傷がつき、その傷が周りの遺伝子の異常を誘発し、60年後に大きな傷となり白血病を発症するのでないかという仮説をテレビは放映していた。

番組では被爆者が主治医からMDSを宣告される辛い場面にもカメラ入れていた。また、発症し余命1カ月となった方が「原子爆弾が私の体の中にいる」と人々の前で証言しておられた。

命を削ってまで、証言したりテレビに登場

する被爆者の姿は、見る者に言いようのない悲しみを与える。なぜ、彼女たちは証言するのか？理由はただ一つ。二度と同じ悲劇を繰り返して欲しくないからです。

朝長万左男院長は「染色体異常を早期に見つけて抗がん剤で治療することが目標である。」と、未来への希望を述べておられました。また「医師の立場で言えば核兵器は最悪の疫病です。この苦しみを世界から無くすには核兵器の廃絶しかありません」と、世界に向けて訴えていました。

この言葉を私たちは、改めて深く心に刻みたいと思います。福島で同じ悲劇を繰り返さないために私たちに何ができるのか、問い掛けられているように感じました。

注：文献 Journal of Clinical Oncology
Vol 29 :428-434, 2011



日本外来小児科学会ワークショップ

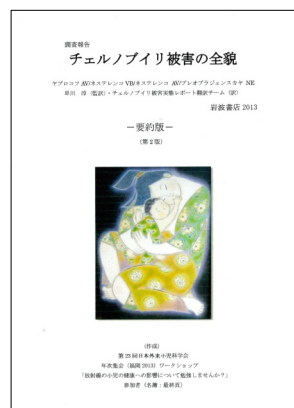
「放射線の小児の健康への影響」について 勉強しませんか？ に参加して

世話人(高岡市・小児科) 小栗 絢子

2013年8月31日～9月1日、福岡で開催された日本外来小児科学会で、昨年反核医師の会の企画で講師をなさった吉田均先生をリーダーに標記WSが行われました。

私たち医療人は十分な知識を持っているのだろうか

このWSは、福島原発事故から2年経過した今なお15万人余の人々が避難生活を余儀なくされている現状があり、被災者たちの相談にあたるべき私たち医療人が放射線の影響について十分な知識を持っているのだろうか、放射線のリスク



*冊子ご希望の方は反核医師の会までご連絡ください

について基礎から学び、患者さんに的確にこたえられるようになりたい、という目的で行われました。WSが行われる2カ月前から事前学習として『調査報告 チェルノブイリ被害の全貌』(岩波書店)を学習テキストとして、参加者全員が担当箇所を分担し要約するという作業を行い、要約した冊子をもとにメーリングリスト上で討論し理解を深めました。

要点としてまとめられたこと

チェルノブイリ事故後25年間の研究で、原発には核兵器より大きな危険がひそんでいることが明白となった。現在も、ヨーロッパ側ロシアで500万人(うち子どもが100万人超え)が危険なレベルの放射線とともに暮らしている。事故直後影響分析を阻む多くの壁があった。この研究は一定の期間における同じ集団の健康状態を比較し検討したものである。

放射線の影響は悪性腫瘍だけではない

放射線の影響は白血病や甲状腺がん、乳がんなどの悪性腫瘍ばかりではなく、全身に及んだ。事故直後には急性異物吸入症状（鼻炎、息切れ、咳）、慢性気管支炎や喘息症状が増えた。血管内皮の破壊や心筋障害により、高血圧、動脈硬化、心臓発作、不整脈が増加した。中枢神経では、脳室の拡大や精神遅滞、注意欠陥障害、学習能力の低下がみられた。慢性の消化器疾患の増加、内分泌疾患としては慢性甲状腺炎をはじめ性ホルモンの分泌低下による性的発達障害、月経異常、不妊などがみられた。免疫系では白血球の形態異常、ヘルパーT細胞・サブプレッサーT細胞の減少、免疫グロブリンGの低下がみられ必然的に感染症が増加した。筋骨格系では骨密度が低下し、腰、四肢、関節に痛みを訴える子供が増加した。周産期死亡率の上昇、先天性奇形の発生率が上昇した。

ベラルーシ保健省のデータによれば、大惨事直前（1985年）には90%の子どもが「健康といえる状態」にあったが、上記のもろもろの疾病のため健康な子どもは20%以下となり、もっとも汚染度の高いゴメリ州では10%以下になった。ウクライナの重度汚染地域に生息していた野ネズミが事故後最大

5分の1に減少した。動物でも人体同様、腫瘍や奇形、免疫不全など種々の病気が増加し、植物にも形態異常がみられた。チェルノブイリ事故は人類のみならずあらゆる生物体に甚大な影響を与え、そしてまた今後も与え続けるであろう。

被ばくを軽視すれば25年後どうなるか

政府が原発再始動に舵を切ったこの時期に「被ばくのリスクを軽視すれば25年後にどうなるか」という事実を、データをもとに紹介した本書の意義は大きい。

WSに参加した方たちは「わからないことが不安」、「子孫のために何かしなくては」、「少なくとも福島を忘れない」、「鹿児島からも生活のため原発作業に入っている人がいる、ちゃんと健康管理をされているのだろうか」「今までは放射線に抵抗なかったがWSに参加して考えが変わった」など活発な話し合いが行われました。

この報告書を学習することによって、原発事故による生命への悲惨な影響を知ることができます。私たちは福島の現実をこれからも追及していかなければという想いを新たにしました。

真実は隠蔽されてはならない

世話人副代表（富山市・内科） 黒部 信也

実は私は9月3日から5日間で中国ハルピンの「日本軍第731部隊遺址を巡る旅」に参加しました。「15年戦争と日本の医学医療研究会」の主催で、このところ毎年行われているものです。

戦後731部隊の非人道的な蛮行は、その資料をアメリカに引き渡すという条件でロンダリングされ、関係者は追及されずに各地の大学、厚生省、公的機関などで働きました。

1981年、作家の森村誠一氏の著書『悪魔の飽食』によって731部隊が初めて国民の注目を浴び、さらに薬害エイズ問題を起こした「ミドリ十字社」に何人も731関係者が関与していたため、激しく非難されることになりました。

しかしその後NHKスペシャル「汚染血液は海を渡った～1万5千ページが語る薬害エイズ」でアメリカの製薬会社などがエイズの特効薬を開発するため「ミドリ十字社」に非加熱製剤を使用させたことがはっきりしまし

た。つまり主犯はアメリカの製薬会社などで、「ミドリ十字社」は従犯でスケープゴートにされたのでした。そしてアメリカの



製薬会社はエイズの特効薬を開発したとして評価されて莫大の利益を挙げ、「ミドリ十字社」は切り捨てられました。そして貴重な証言である「NHKビデオ」は自主規制で消去されました。真実が隠蔽された悲しい一例でした。

今「731部隊遺址」は「平和の礎」として世界遺産に登録されるよう努力されています。「はだしのゲン」も閲覧を制限されるのではなく、もっと広く多くの人に読まれ、過去の悲劇を繰り返さない世論作りのため大きな役割を果たして欲しいものです。



アベノアゼンプレゼン

世話人副代表（魚津市・歯科） 小熊 清史

2020年のオリンピック開催地が東京に決まりました。招致のための安倍首相のプレゼンが話題になっています。米国に留学経験のある首相は、さすがに流暢に英語をしゃべっているように（英語が苦手な私には）見えました。

原発に関連する部分は下記の通り。

Some may have concerns about Fukushima. Let me assure you, the situation is under control.

It has never done and will never do any damage to Tokyo.

朝日新聞は「コントロールできており、東京には何の影響も与えない。問題ない」と報じ、読売新聞は「状況はコントロールされている。私たちは決して東京にダメージを与えない」と報じました。

NHKはWEB版の対訳で「フクシマについて、お案じの向きには私から保証をいたします。状況は、統御されています。東京には、いかなる悪影響にしる、これまで及ぼしたことはなく、今後とも、及ぼすことはありません」としています。産経の報道は、NHKの文章と一字一句違います。不思議に思って調べてみたら、どちらも官邸HP掲載の日本語訳を転載しています。これが正式訳ということなのでしょう。

枝葉末節のことかもしれませんが、この「under control」の部分が気になります。某民放局のキャスターが、政府の関係者に取材したところ、「政府が入って行って、コントロールしますってことを言ってるんであって、現状が完全に制御されていることを言っ

てはいない」とのことです。NHKほかの報道で使われた「統御」という難しい言葉は「指揮命令し監督する」という意味であって、けっして「事がうまく運んで安全が確保されている」という意味ではありません。しかも「保証」しているのは国ではなく、安倍さんです。もし約束を違えたと言われれば、病気になって辞任すればけりがつきます。

さすがに官僚は頭がいいな、と感心します。

野田前首相が「収束状態にある」と言ったときにも、舌を巻きました。「状態」をつけることで、見事に輪郭をぼかします。達人のぼかし画法です。

悪徳商人が吐いたという言葉思い出しました。

「欲の皮がつっぱっているから騙される。騙されるほうが悪いのだ」

皮膚はたるんでいて、つっぱるほどの欲の皮はありません。これからは、眉につばして、騙されないよう心掛けることにしましょう。

会費納入のお願い

私たちの会の活動は、会費中心に運営しています。活動の基盤となる財政を確保するため、先生の入会ならびに2013-2014年会費の納入をお願いします。

会の趣旨に賛同し、入会を了承される先生は、FAXまたは電話でその旨ご連絡ください。会費納入用郵便振替票をお送りします。

◇年会費 5,000円（毎年7月が期首）

◇振込方法

「郵便振替票」をご利用下さい。

◇連絡先

核兵器廃絶をめざす

富山医師・医学者の会

富山市桜橋通り6-13

フコクビル11階 TEL 076(442)8000

編集後記

- 8月下旬、松江市の「はだしのゲン」閉架問題をきっかけに、その過激な描写や歴史認識を問題視する側と作品的価値を評価する側との議論が巻き起こった。
- 「反日極左漫画、自虐史観漫画の閉架は当然」などは論外だが、「子ども相手の小学校図書館にレーティング（年齢の下限区分）は必要」とする識者らの見解が、閉架を求める側に根拠を与えているのではないか。
- ゲンの評価はともかく、今回の問題で本当に憂うべきは、図書への自由なアクセスという民主主義の根幹を、特定の思想を持った個人の圧力によって、行政自ら投げ捨てたことであつたと思う。
- 松江市はその後、手続きに問題があつたとして閉架措置を撤回したが、今後各地で似たようなことが次々と起こるだろう。
がんばれ！ゲンをひるめる会。（S・M）